

| | | | | |
|---------|-----|----------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 危機管理室 防災・危機管理課 | | |
| | 共管課 | 住宅課 地域防災推進課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

1 (1) (3)

引き続き、私から、地域防災力の向上について、順次おこたえします。

まず、北区防災アプリの機能向上についてです。

令和8年1月31日現在の防災アプリのダウンロード数は1万7,313件と、この1年強で4倍超となっており、多様な媒体による周知に加え、各種防災訓練、高齢者向けスマホ教室での啓発などにも注力した結果であり、今後もさらなる拡大を図ってまいります。

なお、スマートフォンの機種変更時の、防災アプリのデータ引き継ぎは、同じOSの機種間（iPhone同士など）でデータを移行する必要があり、それ以外の方法は、技術上の課題から対応しておりません。区民から、同様のお問い合わせがあった際は、丁寧な説明に努めてまいります。

最後に、地域での共助についてです。

はじめに、避難行動要支援者名簿については、約3分の2程度の団体に受け取っていただいています。なお、

| | | | | |
|---------|-----|----------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 危機管理室 防災・危機管理課 | | |
| | 共管課 | 住宅課 地域防災推進課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

配布を希望しない団体に対しては、要支援者名簿活用の手引きを配布し、名簿を活用した共助の支援体制づくりをよびかけております。

また、近隣での顔の見える関係同士の助け合いは、ライフスタイルの多様化が進む中においても、災害時に極めて重要な役割を果たします。そのため、各種訓練などを通じて、顔の見える関係を構築することの重要性について、普及啓発しております。

大規模地震発生直後は、第一に「自らの生命は自らが守る」という自助が基礎であり、そのうえで、共助・公助があると考えています。

そのため、区といたしましては、シェイクアウト訓練の繰り返しの実施のほか、各種イベントで新起震車「なまず号」によるリアルな地震の揺れの体験会実施、また感震ブレーカーや家具転倒防止器具の設置支援など、平時からの自助の取り組みで自らの命を守っていただく取り組みと、共助の取り組みを重層的に展開していくことが重要であると考えています。

| | | | | |
|---------|-----|---------------------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 地域振興部副参事（北区文化振興財団派遣） | | |
| | 共管課 | 地域振興部文化施策推進課 大規模区民施設整備担当課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

2（1）

それでは、私からは演劇文化の継承についてのご質問に順次お答えします。

初めに、北とぴあ演劇祭の今後についてのうち、北とぴあ改修工事の影響についてです。

北とぴあの改修にあたっては、新たな改修プラン「リ・デザインプラン」に基づき、区民の利用をできる限りさまたげることのないよう配慮しながら、安全かつ計画的に進めてまいります。

改修の際は、一時的に利用制限が生じますが、北区文化振興財団や関係団体等へ、早い段階での丁寧な説明や調整を行い、施設を安全かつ快適にご利用いただける環境の確保に努めてまいります。

なお、新たな改修プランの詳細については、本定例会の所管委員会において、ご報告いたします。

次に、北とぴあ演劇祭の稽古場の予約支援や今後の若者の参加についてです。

| | | | | |
|---------|-----|---------------------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 地域振興部副参事（北区文化振興財団派遣） | | |
| | 共管課 | 地域振興部文化施策推進課 大規模区民施設整備担当課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

北とぴあ演劇祭は、毎年9月に実行委員会が中心となって開催されており、北区文化振興財団は運営や経費面でその支援を行っています。

演劇の稽古場については、財団が管理運営するココキタの利用を案内しております。中高生が無料で利用でき、稽古場や多目的室などの施設があることから、多くの方に活用されていると聞いております。さらに、ココキタは、新予約システムの導入など、予約の利便性向上にも取り組んでいます。

今後も、ココキタがアマチュア劇団の稽古場としてさらに活用されるよう財団と連携しながらPRに努めてまいります。

また、北とぴあ演劇祭は高校演劇部などの発表の場として重要な役割を果たしています。今後も、若者の継続的な参加を促し、多くの方々が演劇文化に触れるきっかけの場となるよう、財団や関係者と連携しながら、演劇文化の継承に一層努めてまいります。

| | | | | |
|---------|-----|----------------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 地域振興部副参事（北区文化振興財団派遣） | | |
| | 共管課 | 地域振興部文化施策推進課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

2 (1)

次に、子どもかがやき文化芸術事業の今後についてです。

現在、児童ダンス演劇教室等には小学生から高校生まで約50名が参加しています。

今年度末、共催団体であるA K T S T A G Eの解散に伴い、参加者や保護者からの継続要望の声が寄せられました。それを受け、財団が講師や関係者へのヒアリングを実施し、その結果を踏まえ、区としても、今後の事業について検討してまいりました。現在、これまでの教室の指導者等を中心とした講師陣の選定、プログラム内容の検討など事業実施に向けた準備を進めております。

本事業は、演劇の手法を用いて子どもたちの内面的な成長を支えることを目的としており、これまでの事業成果を引き継ぎつつ、さらに発展できるよう、財団及び関係者と連携を図りながら、子どもたちへの演劇文化の継承に一層努めてまいります。

| | | | | |
|---------|-----|-----------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | まちづくり部住宅課 | | |
| | 共管課 | | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

3 (1)

つぎに、バリアフリー化の推進についてのうち、マンション共用部のバリアフリー化への助成について、お答えします。

区内の主要な居住形態であるマンションについては、快適な居住環境等を確保するため、管理組合において、計画的な修繕や改良などの適正な管理を行うことが必要です。

マンション共用部の修繕等については、居住者の合意形成が重要ですが、区では、スロープ等の設置について、ご相談をいただいた場合には、東京都においてマンションのバリアフリー化等を含む改良工事に対し助成事業を行っていることから、そちらをご案内しています。

区では現在、東京都マンション管理条例に基づき、バリアフリー化への取組みなど管理状況の調査を進めていますので、その結果等も踏まえ、マンションの適正管理が、より一層進むよう、調査・研究してまいります。

| | | | | |
|---------|-----|---------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 総務部 営繕課 | | |
| | 共管課 | 課 | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

3 (2)

次に、区有施設バリアフリー化の対策についてです。

北区区有施設整備基本指針では、区有施設の整備にあたり、ユニバーサルデザインの考え方に立ち、利用者の視点を重視した利便性の高い施設づくりをより一層推進することとしています。

こうした指針を踏まえ、区では、区有施設の利用状況や利用実態を十分に把握したうえで、それぞれの施設の特性や用途、整備の実施可能性に応じて、バリアフリー化を進める必要があると考えております。

区有施設のバリアフリー化を効率的かつ効果的に施設整備を行うためにも、施設の利用頻度や必要性を踏まえた優先順位を設定し、優先度の高い施設から計画的にバリアフリー化の対策を進めてまいります。

| | | | | |
|---------|-----|-------------|----|-----|
| (答弁案) | 主管課 | 土木部 交通事業担当課 | | |
| | 共管課 | | | |
| 佐藤 かずゆき | | 公 明 | 個人 | 1 2 |

4 (1)

最後に、地域課題のデマンド交通車両の大型化についてお答えします。

利用希望時間の重複は、暑い時期の医療施設の受付開始前など、ニーズの偏在により予約が集中した際に発生しており、区といたしましても、課題であると認識しております。

このような課題とともに、利用者や地域の皆さまからいただいた意見・要望に対応するため、次年度は引き続き実証運行を継続しながら、利用状況やアンケート結果を検証し、より効率的な運行形態等を検討してまいります。

なお、詳細については、本定例会の所管委員会において、ご報告いたします。